

8 学生募集に関する事項

18歳人口の減少で、すでに、定員割れが起きている私立大学は、平成17年度に160校あり全体の30%に達している。平成19年度には「大学全入時代」が到来すると言われており、その前年である平成18年度入試は、18歳人口減少の加速化という環境下で迎えることとなった。

2年続けて志願者が減少している本学は、その流れに歯止めをかけ、さらには「志願者数50,000人確保」を達成するため、学部入試の主軸である2教科型公募推薦入試と一般入試A日程・B日程の入試制度の大幅改革を行った。

その改革内容は、多彩な学生が、その個性や能力に応じて受験できるよう、入試方式の多様化や併願制度の柔軟化等である。

その結果、目標の志願者数を確保することができた。

1) 入学試験制度

平成17年9月入学の大学院経済学研究科、経済学部、国際文化学部の入学試験と外国人留学生入学試験から、平成18年4月入学の大学院入学試験、学部入学試験、編・転入学試験、大学入試センター試験、外国人留学生入学試験などを入試形態別に23の実施日を設けている。

そのうち、学部・短期大学部の1年次入学の主な入学試験である公募推薦入試は2日間、一般入試A日程は2日間、B日程は3日間で計7日間実施し、センター試験利用入試は、前期募集と後期募集を行った。

2) 学生募集結果

平成18年4月入学の大学院、大学学部、短期大学部、編・転入、短期大学部専攻科入試の志願者は53,045名であり、入学者は5,312名であった。また、外国人留学生入試の志願者は、235名であり、94名の学生が入学した。

主な入試のうち、公募推薦入試の志願者については11,252名(対前年比154.7%)、一般入試については34,117名(対前年比109.8%)、センター試験利用入試については5,463名(対前年比93.6%)、合計50,832名であり、6,664名(対前年比115.1%)の増であった。

また、平成17年9月入学の大学院、大学学部入試では、志願者1名で1名が入学した。外国人留学生入試では、志願者56名であり、入学者は30名であった。

3) 入学志願者募集活動

受験生と大学との接触率が志願率の増減に比例することから、積極的にその機会の拡大をはかってきた。

特に、大学キャンパスで行うオープンキャンパスはその主要な役割を持つ場である。その参加者もここ数年、受験生に加えて保護者の参加者が増加しつつあり、企画内容も受験生対象の入試説明会・入試相談・ミニ講義・現役学生との懇談などに加え、保護者対象の企画を取り入れた内容で、新3回生になる春季開催を含めて深草学舎で5日間、瀬田学舎で2日間開催し、10,813名(昨年比111.8%)の参加者があった。入試時期間近には、デリバリーキャンパスとして近畿圏各地で「龍谷大学入試対策講座」を開催した。

また、生徒対象の個別高校での入試説明会にも積極的に参加。全国各地で開催されている「進学相談会」には、30歳代までの全学事務職員で構成する入試アドバイザーが協力し、109会場に参加した。

なお、入試部職員の高校・予備校訪問の他、課長職位者による大阪圏有力高校への訪問も継続して実施し、教員による模擬授業出張講義も拡大に努力しており、出願促進に向けた全学的取り組みを行っている。